

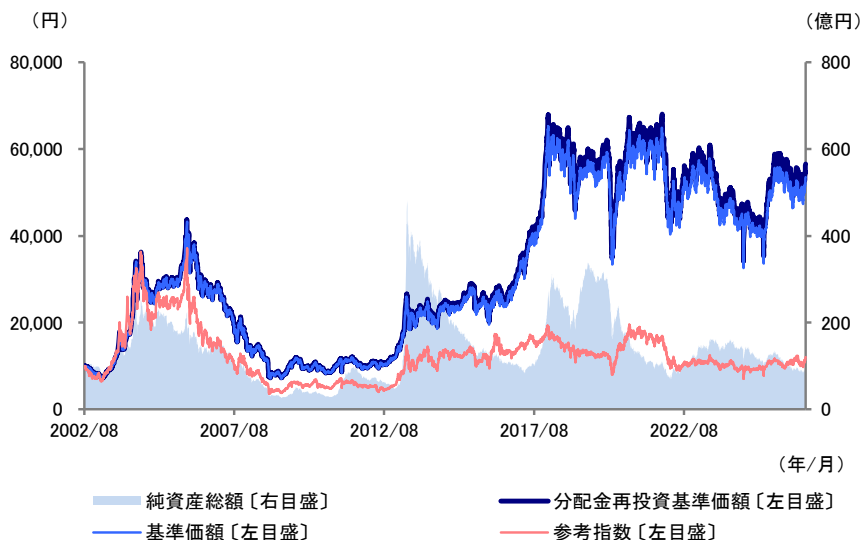
小型株ファンド
《愛称》グローイング・アップ

追加型投信／国内／株式

作成基準日：2026年 8月31日
資料作成日：2026年 9月 7日

【日本経済新聞掲載名】Gアップ

基準価額・純資産総額の推移



- ※ 参考指数は東証グロース市場250指数(配当込み)です。設定日前営業日を10,000として指数化しています。
- ※ 参考指数はベンチマークではありません。
- ※ 分配金再投資基準価額は信託報酬控除後のものであり、分配金実績があった場合に税引前分配金を再投資したものとして算出しています。

期間別騰落率

期間	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
ファンド	10.9%	2.7%	1.8%	-2.6%	5.9%	465.6%

※ 騰落率は分配金再投資基準価額で算出しています。

組入上位10業種

	比率
1 情報・通信業	24.9%
2 サービス業	22.6%
3 機械	7.1%
4 電気機器	6.4%
5 建設業	6.4%
6 小売業	6.3%
7 金属製品	6.0%
8 食料品	4.6%
9 輸送用機器	3.6%
10 その他金融業	2.7%

資産別構成

	比率
国内株式	96.9%
株価指数先物	—
短期金融資産等	3.1%

市場別構成

	比率
プライム	9.5%
スタンダード	28.3%
グロース	59.1%
その他	—

※比率は純資産総額に対する割合です。

※業種は東証33業種分類です。

※東証グロース市場250指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社に帰属します。

設定・運用は

最終ページの「当資料ご利用にあたっての留意事項」を必ずご覧ください。

明治安田アセットマネジメント

小型株ファンド
《愛称》グロイーグ・アップ

追加型投信／国内／株式

作成基準日：2026年 8月31日
資料作成日：2026年 9月 7日

【日本経済新聞掲載名】Gアップ

組入上位10銘柄

銘柄数： 49

銘柄名	業種	比率	銘柄紹介
1 令和アカウンティング・ホールディングス	サービス業	4.0%	上場企業向けに経理業務から決算・連結・開示、M&A支援まで一貫提供する経理・会計特化型のコンサル企業です。専門チームによる高品質支援と継続契約型モデルで安定収益と高付加価値サービスを実現しています。
2 ワンキャリア	情報・通信業	3.8%	クチコミを中心とするキャリアデータを用いた就活サイトや転職サイトを運営しています。学生向けの就活サイトでは、企業選考時の体験談や企業評価などのキャリアデータとクオリティの高い動画コンテンツをそろえており、学生が本当に知りたい情報の提供が支持されています。
3 MIC	サービス業	3.5%	リテール業界向けに、「360° フルサービス」などを通じて販促業務支援を展開しています。企画・製造・物流・システム開発・デザインなどを一貫体制で提供し、業務効率化とコスト最適化を実現しています。ドラッグストア市場に広範なネットワークを築いている点が強みです。
4 クラシル	サービス業	3.4%	レシピ動画サービス「クラシル」を中核とするインターネット企業。ライフスタイルメディア「TRILL」や購買支援サービスを展開し、多様なユーザー基盤を活用した広告・販促支援やリテール関連事業で成長を図っています。
5 トライアルホールディングス	小売業	3.3%	食品・生活必需品を「EDLP (Every Day Low Price)」で提供するディスカウントストアを運営するほか、流通業界向けにリテールDX事業を展開し、全国的な店舗ネットワークの構築とデータ活用による業務効率化・顧客体験の向上を実現しています。
6 セイワホールディングス	金属製品	3.2%	後継者不足が課題となる製造業の中小企業をM&Aで傘下に収め、経営支援や機能集約を通じて企業価値向上を図る企業です。各社が持つ技術やノウハウを活かした事業基盤の強化を進めています。
7 VRAIN Solution	情報・通信業	3.0%	製造業向けに、AIによる外観検査の自動化システムの提供とDX支援を行っています。AIとIoT技術を活用し、製造現場に密着した課題解決力を強みとする企業です。
8 ボードルア	情報・通信業	3.0%	ITインフラストラクチャ（ハードウェアやネットワーク等といったIT環境の運用と管理に必要とされる設備や要素）を専門に事業を展開し、コンサルティングから設計、構築、マネージドサービスまで、専門技術を活かしたサービスを提供しています。
9 グローバルセキュリティエキスパート	情報・通信業	2.9%	中堅・中小企業を対象に情報セキュリティサービスを提供しています。サイバー攻撃の脅威が高まる中、脆弱性診断などのサービスを低コストで提供しています。また、従業員に対するセキュリティ訓練などのサービスも行っています。
10 トヨコー	建設業	2.9%	老朽化した工場や橋梁などのインフラ向け補修技術を手掛ける企業です。工場屋根を補強・延命する「SOSEI工法」と、橋梁や鉄塔のサビ・塗膜を除去する「CoolLaser」を主力とし、独自技術を強みに事業を拡大しています。

※ UBPインベストメンツ株式会社からのコメント、各社ホームページをもとに明治安田アセットマネジメント株式会社が作成したものです。

※ 個別銘柄の推奨を目的とするものではありません。

設定・運用は

最終ページの「当資料ご利用にあたっての留意事項」を必ずご覧ください。

明治安田アセットマネジメント

小型株ファンド
《愛称》グロイーグ・アップ

追加型投信／国内／株式

作成基準日：2026年 8月31日
資料作成日：2026年 9月 7日

【日本経済新聞掲載名】Gアップ

基準価額の変動要因(銘柄別)

		寄与額
上位	1 令和アカウンティング・ホールディングス	598円
	2 トライアルホールディングス	401円
	3 ワンキャリア	396円
	4 セイワホールディングス	373円
	5 GO	323円
下位	1 リガク・ホールディングス	-145円
	2 守谷輸送機工業	-82円
	3 セキュア	-66円
	4 西部技研	-63円
	5 フルハシEPO	-57円

※ 寄与額は、個別銘柄の基準価額への影響が、過去1カ月間でどの程度あったかを示した概算値です。

市場動向

国内株式相場において、東証株価指数（TOPIX）は上昇しました。

好業績銘柄が選好される展開の中、日銀が利上げペースを加速するとの見方が広がる一方、米国で早期の利上げ観測が後退したことが支援材料となり、上昇しました。中旬には中東情勢に対する懸念から下げる場面がありましたが、その後は米国の大手半導体企業の決算が市場予想を上回る内容となったことから、底堅く推移しました。

東証グロース市場250指数は前月末比で上昇しました。これまで大きく上昇した大型AI（人工知能）関連銘柄から、内需株や値動きの軽い小型株を物色する動きが強まり、上昇しました。

8月の新規公開企業件数は1件です。

今後の運用方針

引き続き、わが国の金融商品取引所上場株式（これに準ずるものを含みます。）のうち、中小型株式を主要投資対象とし、UBPインベストメンツ株式会社より投資に関する助言を受けて運用を行います。

新規株式公開企業等の中小型株式に特化して調査・分析を行うスペシャリストが「次代を拓く革新高成長企業」を厳選します。

UBPインベストメンツ 日本小型株式マネジメント部の視点

当ファンドでは、投資助言を行うUBPインベストメンツ 日本小型株式マネジメント部を通じ個別企業に対する積極的な調査活動と綿密な分析を行いながら、魅力的な革新高成長企業への厳選投資を行います。

(※) 以下は、日本小型株式マネジメント部から当ファンドへの運用助言に際してのコメントです。

製薬会社が外部から新薬候補を導入することは以前から一般的に行われてきましたが、近年大きく変化しているのは、その供給元として中国企業の存在感が急速に高まっていることです。米国の医薬品市場調査会社IQVIA（アイキューヴィア）によると、2025年に大手製薬会社が外部から導入した新薬候補のうち約40%が中国発の案件で占められており、2024年の約30%からさらに上昇しました。

実際に、米ファイザーは中国のバイオ医薬品企業3SBio（スリーエスバイオ）からがん治療薬候補の導入契約をしました。日本でも武田薬品工業が中国の大手バイオ医薬品企業Innovent（イノベント）から複数のがん治療薬候補を取得するなど、中国発の新薬を世界の手製薬会社が取り込む動きが広がっています。

中国の強みの一つは、創薬スピードです。大手コンサルティング会社マッキンゼーによると、中国では創薬初期の研究段階から臨床試験開始までの期間が、他地域と比べて50～70%短いとされています。背景には臨床試験に参加可能な患者数の多さに加え、患者が大規模病院を受診しやすい環境であることや、CRO（治験支援会社）などの開発インフラが整っていることがあります。その結果、治験に必要な患者を集めやすく、新薬候補を短期間で臨床段階まで進めることが可能となっています。

こうした環境を踏まえると、中国などで一定の開発段階まで進んだ新薬候補を導入し、日本企業が強みを持つ国内開発や販売に経営資源を集中させることは、有力な選択肢の一つと考えられます。一方で、中国の有望な新薬候補には世界中の製薬会社や投資家の注目が集まっており、導入コストは上昇傾向にあります。そのため、投資に見合う価値があるかを慎重に見極めることが重要です。

特に経営資源が限られる中小製薬企業にとっては、自社で新薬を創出するか、外部から導入するかという手法そのものではなく、限られた資金をどこに振り向けることが最も高い投資効果につながるのかを冷静に判断することが求められます。自社研究への投資が十分なリターンを生まない場合には、有望な新薬候補の導入、あるいは株主還元を含めた資本配分の見直しを行うことも合理的な経営判断となるでしょう。

こうした考え方は医薬品業界に限りません。企業が既存事業から生み出したキャッシュを、より高い成長や収益を生み出す事業・資産へ適切に振り向けることは、あらゆる業種に共通する重要な課題です。今後も当ファンドでは、各企業の成長性だけでなく、資金をより高い収益を生む事業や資産へ振り向けられるか、といった経営判断の質にも注目しながら、銘柄選択を行ってまいります。

小型株ファンド 《愛称》グローイング・アップ 追加型投信／国内／株式

ファンドの目的

小型株ファンドは、わが国の金融商品取引所上場株式(これに準ずるものを含みます。)のうち、中小型株式を主要投資対象として、信託財産の積極的な成長を目指して運用を行います。

ファンドの特色

- 1 小型株ファンドは、わが国の金融商品取引所上場株式(これに準ずるものを含みます。)のうち、中小型株式を主要投資対象とします。
- 2 新規株式公開企業等の中小型株式に特化して調査・分析を行うスペシャリストが「次代を拓く革新高成長企業」を厳選します。
- 3 UBPインベストメンツ株式会社※が投資助言
UBPインベストメンツ株式会社(以下「UBPインベストメンツ」ということがあります。)より投資に関する助言を受けて運用を行います。
※2026年1月1日付で、エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社は、UBPインベストメンツ株式会社との合併により、商号をUBPインベストメンツ株式会社に変更いたしました。

分配方針

年1回(8月12日。休業日の場合は翌営業日)決算を行い、原則として以下の方針に基づき分配を行います。
・分配対象額の範囲は、諸経費等控除後の利子・配当収入と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。
・収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。また、信託財産の積極的な成長を図ることを本旨として収益分配金額を決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。
※将来の収益分配金の支払いおよびその金額について示唆・保証するものではありません。

投資リスク

基準価額の変動要因

当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、価格変動の影響を受け、基準価額は変動します。これらの運用により信託財産に生じた運用成果(損益)はすべて投資者の皆さまに帰属します。

したがって、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により投資元本を割り込み、損失を被ることがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

なお、ファンドが有する主なリスクは、以下の通りです。

主な変動要因

株価変動リスク	株式の価格は、政治・経済情勢、金融情勢・金利変動等および発行体の企業の事業活動や財務状況等の影響を受けて変動します。保有する株式価格の下落は、ファンドの基準価額を下げる要因となります。
流動性リスク	株式を売買しようとする際、需要または供給が少ないため、希望する時期に、希望する価格で、希望する数量を売買できなくなることがあります。ファンドが保有する資産の市場における流動性が低くなった場合、売却が困難となり、当該資産の本来の価値より大幅に低い価格で売却せざるを得ず、ファンドの基準価額を下げる要因となります。
信用リスク	投資している有価証券等の発行体において、利払いや償還金の支払い遅延等の債務不履行が起こる可能性があります。 また、有価証券への投資等ファンドに関する取引において、取引の相手方の業績悪化や倒産等による契約不履行が起こる可能性があります。

※ 基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要がある場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価額で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止となる可能性、換金代金の支払いが遅延する可能性があります。
- 資金動向、市況動向等によっては、投資方針に沿う運用ができない場合があります。
- 収益分配は、計算期間中に発生した運用収益(経費控除後の配当等収益および売買益(評価益を含みます。))を超えて行われる場合があるため、分配水準は必ずしも当該計算期間中の収益率を示すものではありません。
投資者の個別元本(追加型投資信託を保有する投資者毎の取得元本)の状況により、分配金額の全部または一部が、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。
分配金は純資産から支払われるため、分配金支払いに伴う純資産の減少により基準価額が下落する要因となります。当該計算期間中の運用収益を超える分配を行う場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べ下落することとなります。

小型株ファンド 《愛称》グローイング・アップ 追加型投信／国内／株式

お申込みメモ

購 入 単 位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社へお問い合わせください。
購 入 価 額	購入申込受付日の基準価額とします。 (基準価額は1万口当たりで表示しています。 以下同じ。) ※基準価額は販売会社または委託会社へお問い合わせください。
購 入 代 金	販売会社が指定する期日までにお支払いください。
換 金 単 位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社へお問い合わせください。
換 金 価 額	換金申込受付日の基準価額から 0.5% の信託財産留保額を控除した額とします。
換 金 代 金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目から受益者に支払います。
申 込 締 切 時 間	原則として、販売会社の営業日の午後3時30分までに販売会社が受付を完了した分を当日の申込みとします。なお、販売会社によっては受付時間が異なる場合がありますので、詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた申込みの受付を取消すことがあります。
信 託 期 間	無期限(2002年8月13日設定)
繰 上 償 還	委託会社は、純資産総額が10億円を下回った場合、この信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。また、当ファンドにおける投資顧問契約(助言契約)が解約された場合には、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。
決 算 日	毎年8月12日(休業日の場合は翌営業日)
収 益 分 配	年1回決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。 ※当ファンドには、「分配金受取りコース」および「分配金再投資コース」があります。なお、お取扱い可能なコースおよびコース名については、異なる場合がありますので、販売会社へお問い合わせください。
課 税 関 係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。配当控除の適用が可能です。益金不算入制度の適用はありません。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度(NISA)の適用対象となります。 ※当ファンドは、NISAの「特定非課税管理勘定(成長投資枠)」の対象です。 販売会社によって取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社へお問い合わせください。 なお、税法が改正された場合には、上記の内容が変更されることがあります。

ファンドの費用・税金

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に、 3.3%(税抜3.0%) を上限として販売会社が定める率を乗じて得た額とします。詳細については、お申込みの各販売会社までお問い合わせください。 ※購入時手数料は、購入時の商品説明、事務手続き等の対価として販売会社にお支払いいただきます。
信託財産留保額	換金申込受付日の基準価額に 0.5% の率を乗じて得た額を、ご換金時にご負担いただきます。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの純資産総額に対し、年1.87%(税抜1.7%)の率を乗じて得た額がファンドの計算期間を通じて毎日計上され、ファンドの日々の基準価額に反映されます。なお、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日(該当日が休業日の場合は翌営業日)および毎計算期末または信託終了のとき、信託財産中から支払われます。 内訳 <table> <tr> <th>配分</th><th>料率(年率)</th></tr> <tr> <td>委託会社</td><td>1.012%(税抜0.92%)</td></tr> <tr> <td>販売会社</td><td>0.748%(税抜0.68%)</td></tr> <tr> <td>受託会社</td><td>0.11%(税抜0.1%)</td></tr> <tr> <td>合 計</td><td>1.87%(税抜1.7%)</td></tr> </table>	配分	料率(年率)	委託会社	1.012%(税抜0.92%)	販売会社	0.748%(税抜0.68%)	受託会社	0.11%(税抜0.1%)	合 計	1.87%(税抜1.7%)
配分	料率(年率)										
委託会社	1.012%(税抜0.92%)										
販売会社	0.748%(税抜0.68%)										
受託会社	0.11%(税抜0.1%)										
合 計	1.87%(税抜1.7%)										
その他の 費用・手数料	信託財産の監査にかかる費用(監査費用)として監査法人に年0.0044%(税抜0.004%)を支払う他、有価証券等の売買の際に売買仲介人に支払う売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、その他信託事務の処理に要する費用等がある場合には、信託財産でご負担いただきます。 ※その他の費用については、運用状況等により変動しますので、事前に料率、上限額等を表示することができません。また、監査費用は監査法人等によって見直され、変更される場合があります。										

※当該手数料等の合計額については、投資者の皆さまの保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

ファンドの税金

・税金は表に記載の時期に適用されます。
・以下の表は、個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。

時 期	項 目	税 金
分配時	所得税及び 地方税	配当所得として課税します。 普通分配金に対して20.315%
換金(解約)時 及び償還時	所得税及び 地方税	譲渡所得として課税します。 換金(解約)時及び償還時の差益 (譲渡益)に対して20.315%

※外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。
※受益者が確定拠出型年金法に規定する資産管理機関および国民年金基金連合会等の場合は、所得税および地方税がかかりません。また、確定拠出年金制度の加入者については、確定拠出年金の積立金の運用にかかる税制が適用されます。
※法人の場合については上記とは異なります。
※税法が改正された場合等には、上記の内容が変更されることがあります。税金の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めいたします。

設定・運用は

明治安田アセットマネジメント

最終ページの「当資料ご利用にあたっての留意事項」を必ずご覧ください。

小型株ファンド 《愛称》グローイング・アップ

追加型投信／国内／株式

販売会社一覧

※お申込み・投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は、以下の販売会社へお申し出ください。

販売会社名	登録番号	加入協会				備考
		日本証券 業協会	一般社団 法人資産 運用業 協会	一般社団 法人第二 種金融商 品取引業 協会	一般社団 法人金融 先物取引 業協会	
銀行						
株式会社イオン銀行 （委託金融商品取引業者 マネックス証券株式 会社）	登録金融機関	関東財務局長（登金）第633号	○			
株式会社熊本銀行	登録金融機関	九州財務局長（登金）第6号	○			
株式会社十八親和銀行	登録金融機関	福岡財務支局長（登金）第3号	○			
株式会社福岡銀行	登録金融機関	福岡財務支局長（登金）第7号	○		○	
PayPay銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長（登金）第624号	○		○	
株式会社SBI新生銀行 （委託金融商品取引業者 マネックス証券株式 会社）	登録金融機関	関東財務局長（登金）第10号	○		○	
株式会社SBI新生銀行 （委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券）	登録金融機関	関東財務局長（登金）第10号	○		○	
証券会社						
岩井コスモ証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長（金商）第15号	○	○		○
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第164号	○			○
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第165号	○	○	○	○
みずほ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第94号	○	○	○	○
三菱UFJ eスマート証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第61号	○	○	○	○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○
PayPay証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第2883号	○			
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第44号	○	○	○	○

小型株ファンド 《愛称》グローイング・アップ

追加型投信／国内／株式

当資料ご利用にあたっての留意事項

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社が運用状況をお知らせすることを目的に作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託のお申込みを行う場合には投資信託説明書（交付目論見書）を販売会社よりお渡しいたしますので、必ず投資信託説明書（交付目論見書）で内容をご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。投資信託の運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではなく、また、登録金融機関から購入された投資信託は投資者保護基金の補償対象ではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料の運用実績に関するグラフ・数値等は、過去の実績を示したものであり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。各主体は、当ファンドの運用成果等に関し、一切責任はありません。
- 当資料に記載された見解・見通し・投資方針は作成時点におけるUBPインベストメンツ株式会社の見解等をもとに明治安田アセットマネジメント株式会社が作成した内容であり、将来の経済・市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。
- 当資料に掲載された個別の銘柄や企業名は参考情報であり、これらの銘柄について取得勧誘や売買推奨を行うものではありません。また、将来の組入れを示唆または保証するものではありません。

委託会社、その他関係法人の概要

委託会社	ファンドの運用の指図等を行います。	＜ファンドに関するお問い合わせ先＞
	明治安田アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第405号 加入協会：一般社団法人資産運用業協会	明治安田アセットマネジメント株式会社 フリーダイヤル 0120-565787（営業日の午前9時～午後5時） ホームページアドレス https://www.myam.co.jp/
受託会社	ファンドの財産の保管および管理等を行います。 三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社	
販売会社	ファンドの募集の取扱いおよび解約お申込みの受付等を行います。 販売会社一覧をご覧ください。	